

○神奈川大学附属中学校学則

昭和59年11月19日

施行

改正 令和3年3月4日

第1章 総則

(目的)

第1条 学校法人神奈川大学が設置するこの中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、生徒に中高一貫教育（併設型中学校）を施し、かつ、神奈川大学附属高等学校と一体となって、高等学校に進むための基礎的能力を涵養することを目的とする。

(名称)

第2条 前条の中学校は、神奈川大学附属中学校（以下「本校」という。）と称する。

(位置)

第3条 本校は、神奈川県横浜市緑区台村町800番地に置く。

第2章 生徒定員及び職員組織

(生徒定員及び学級数)

第4条 本校の生徒定員及び学級数は、次のとおりとする。

入学定員 200人

総定員 600人

総学級数 18学級

学年	学級	収容定員
第一学年	6	200名
第二学年	6	200名
第三学年	6	200名
計	18	600名

(職員)

第5条 本校に、次に掲げる職員を置く。

校長 1名

副校長 1名

教頭 1名

教諭 35名

司書教諭	1名
養護教諭	1名
事務職員	4名
学校医	1名
学校歯科医	1名
学校薬剤師	1名

2 前項に定めるもののほか、必要な職員を置くことができる。

(校長等の職務)

第6条 校長は、校務をつかさどり、所属職員を監督する。

2 副校長は、校長を助け、校務を整理し、及び必要に応じ生徒の教育をつかさどり、並びに校長に事故があるときは、その職務を代理する。

3 教頭は、校長及び副校長を補佐し、命を受けて校務を整理し、教育をつかさどる。

4 教諭は、生徒の教育をつかさどる。

5 養護教諭は、生徒の養護をつかさどる。

6 前5項に規定するもののほか、職員の職務については、学校教育法（昭和22年法律第26号）その他の法令の定めるところによる。

7 職員の校務分掌は、校長が別に定める。

### 第3章 修業年限、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第7条 本校の修業年限は、3年とする。

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第9条 学年を次の学期に分ける。

第1学期 4月1日から7月31日まで

第2学期 8月1日から12月31日まで

第3学期 1月1日から3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

- (3) 神奈川大学創立記念日 5月15日
- (4) 本校開校記念日 11月19日
- (5) 夏季休業 7月21日から8月31日まで
- (6) 冬季休業 12月21日から翌年1月7日まで
- (7) 春季休業 3月21日から4月7日まで

2 校長は、教育上必要がある場合は、前項の休業日を臨時に変更し、授業を行うことができる。

3 第1項に定めるもののほか、校長は、臨時に学校の全部又は一部の休業を行うことができる。

#### 第4章 入学

##### (入学の時期)

第11条 入学の時期は、学年の初めとする。ただし、第16条に規定する者については、随時受け入れることができる。

##### (入学資格)

第12条 本校に入学することができる者は、小学校を卒業した者とする。

##### (入学の出願)

第13条 本校への入学を志願する者は、入学願書に所定の検定料、及び別に定める書類を添えて、願い出なければならない。

##### (入学者の選考)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより、選考を行う。

##### (入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選考の結果に基づき合格した者は、所定の期日までに、誓約書・保証書等所定の書類に、入学金を添えて、提出しなければならない。

2 前項に定める手続きが、所定の期日までに行われなるときは、入学を辞退したものとす

る。

3 校長は、前項の入学手続きを完了した者に対して、入学を許可する。

##### (編入学及び転入学)

第16条 校長は、編入学及び転入学を志願する者があるときは、生徒定員に欠員がある場合などに、選考の上、相当学年に入学を許可することがある。

#### 第5章 教育課程、授業時数及び教科用図書

##### (教育課程、授業時数及び教科用図書)

第17条 本校の教育課程は、中学校学習指導要領に基づいて編成し、その教科名及び授業  
時数は、別表1のとおりとする。

2 本校で使用する教科用図書は、校長が選定する。

第6章 学習の評価、課程修了の認定及び卒業  
(学習の評価)

第18条 学習の評価に関する基準及びその方法は、校長が別に定める。

(課程修了の認定)

第19条 各学年の課程の修了は、当該学年の平素の成績を評価して、校長が認定する。

(卒業)

第20条 本校所定の全課程を修了した者については、校長が卒業を認定する。

2 校長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。

第7章 休学、出席停止、転学及び退学  
(休学)

第21条 生徒が、疾病その他特別の理由により、引き続き3か月以上修学することができ  
ないときは、保護者は、所定の書類にその理由を明記し、医師の診断書等を添え、願い出  
て、校長の許可を受けなければならない。

2 校長は、疾病のため修学することが適当でないと認められる者に、休学を命ずることが  
できる。

(復学)

第22条 休学中の生徒が、復学しようとするときは、保護者は、所定の書類にその事情を  
明記し、医師の診断書等を添え、願い出て、校長の許可を受けなければならない。

(出席停止)

第23条 生徒が、感染症にかかり又はその恐れのあるとき、及びその他必要があると認め  
るときは、校長は、その生徒に対して出席停止を命ずることがある。

2 校長は、性行不良であって、他の生徒の教育に妨げがあると認める生徒があるときは、  
その保護者に対して、生徒の出席停止を命ずることができる。

(転学)

第24条 生徒が、転学しようとするときは、保護者は、所定の書類にその理由を明記し、  
願い出て、校長の許可を受けなければならない。

(退学)

第25条 生徒が、退学しようとするときは、保護者は、所定の書類にその理由を明記して

願い出ることにより、校長は、その生徒の退学を認めるものとする。

## 第8章 賞罰

(表彰)

第26条 表彰に値する行為があった生徒は、校長が表彰する。

(懲戒)

第27条 生徒が、学則その他本校の定める諸規則を守らず生徒としての本分に反する行為があったときは、校長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがない者

(2) 学力劣等で成業の見込みがない者

(3) 正当の理由がなくて出席常でない者

(4) 本校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に著しく反した者

## 第9章 授業料、入学金、検定料及びその他の納入金

(授業料等の納入)

第28条 授業料、入学金、検定料及びその他の納入金の額は、別表2のとおりとする。

2 生徒が在籍中は、出席の有無にかかわらず、保護者は、授業料及びその他の納入金を、別に定めるところによりその全額を納入しなければならない。

3 すでに納入した授業料、入学金、検定料及びその他の納入金は、原則として返還しない。

(休学の場合の授業料等)

第29条 休学を許可され、又は命ぜられた者の授業料及びその他の納入金は、別に定めるところにより減額する。

(編入学、転入学の場合の授業料等)

第30条 編入学及び転入学を許可された者の授業料、入学金、検定料及びその他の納入金は、別に定める。

(滞納による除籍)

第31条 正当な理由がなく、授業料を3か月以上滞納し、その後においても納入の見込みがないときは、校長が除籍する。

## 第10章 身上事項等の届出

(身上事項の異動の届出)

第32条 生徒及び保護者、保証人の氏名・住所の変更等、身上事項について異動があった

とき、保護者は、すみやかに届け出なければならない。

(欠席等の届出)

第33条 生徒が、病気その他やむを得ない理由により、欠席・遅刻・早退するとき、保護者は、その理由を明記し、届け出なければならない。

附 則

- 1 この学則は、昭和59年11月19日から施行する。
- 2 この学則の施行に関し、必要な事項は、校長が別に定める。

附 則（昭和60年4月22日改正）

この学則は、昭和60年4月22日から施行し、昭和59年11月19日から適用する。

附 則（昭和62年6月8日改正）

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成元年5月22日改正）

この学則は、平成元年5月22日から施行し、平成元年4月1日から適用する。

附 則（平成元年5月22日改正）

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則（平成元年6月19日改正）

- 1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、第28条（授業料等の納入）に規定する検定料については、平成2年2月1日から適用する。
- 2 平成元年度以前の入学者及び平成元年度入学年次以前への編入学者、転入学者にかかわる授業料の額は、改正後の第28条の規定にかかわらず、従前の例による。

附 則（平成元年11月27日改正）

- 1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。ただし、第28条（授業料等の納入）に規定する検定料については、平成2年2月1日から適用する。
- 2 第28条に規定する別表2については、平成元年度以前の入学者及び平成元年度入学年次以前への編入学者、転入学者における別表2を別表2の1とし、平成2年度以後の入学者における別表2を別表2の2とする。

附 則（平成2年5月21日改正）

この学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第17条（教育課程、授業時数及び教科用図書）に規定する別表1への移行措置については、学習指導要領の告示や通達に基づいて、平成3年4月1日から適用する。

附 則（平成3年11月12日改正）

この学則は、平成3年11月12日から施行し、平成3年10月1日から適用する。

附 則（平成3年11月12日改正）

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 第28条（授業料等の納入）に規定する別表2については、平成2年度、平成3年度入学者及び平成2年度、平成3年度入学年次への編入学者、転入学者における別表2を別表2の1とし、平成4年度以後の入学者における別表2を別表2の2とする。

附 則（平成4年5月20日改正）

この学則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第28条（授業料等の納入）に規定する別表2の検定料については、平成5年度入学試験にかかる検定料受付時点から適用する。

附 則（平成9年5月16日改正）

この学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、第28条（授業料等の納入）に規定する別表2については、平成4年度から平成9年度までの入学者における別表2を別表2の1とし、平成10年度以後の入学者における別表2を別表2の2とする。

附 則（平成10年10月9日改正）

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平成11年6月24日改正）

この学則は、平成12年4月1日から施行する。ただし、第28条（授業料等の納入）に規定する別表2については、平成10年度および平成11年度までの入学者における別表2を別表2の1とし、平成12年度以後の入学者における別表2を別表2の2とする。

附 則（平成13年6月15日改正）

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成14年1月11日改正）

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成14年2月28日改正）

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成14年11月14日改正）

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成15年7月29日改正）

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月11日改正）

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年1月23日改正）

この学則は、平成21年1月23日から施行する。

附 則（平成22年12月16日改正）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成23年4月19日改正）

この学則は、平成23年4月19日から施行する。

附 則（平成27年1月22日改正）

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月26日改正）

1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

2 この学則は、平成28年度入学者から適用し、平成27年度以前の入学者に係る授業料その他の納入金額については、なお従前の例による。

附 則（平成29年3月9日改正）

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月5日改正）

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年3月4日改正）

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

(別表1)

中学校教育課程

区分		第1学年	第2学年	第3学年
必修教科	国語	175	210	210
	社会	140	140	140
	数学	210	210	210
	理科	140	140	140
	音楽	52.5	35	35
	美術	52.5	35	35
	保健体育	105	105	105
	技術・家庭	70	70	35
	外国語（英語）	175	175	210



道徳	35	35	35
総合的な学習の時間	70	70	105
学級活動	35	35	35
合計	1260	1260	1295

〔備考〕

- 1 表に示されている数字は、年間総授業時数である。
- 2 総合的な学習の時間の一部については、期間を定めて集中的に実施する。

(別表 2)

授業料、入学金、検定料及びその他の納入金額

納入金内訳	納入金額
検定料	25,000円
入学金 (含編入学・転入学)	230,000円
授業料	560,000円
施設設備資金	180,000円
年額	740,000円